

令和元年度 キックオフシンポジウム報告書

(プロジェクト研究「高度情報技術の進展に応じた教育革新に関する研究」)

「高度情報技術を活用した教育革新の展望と検討課題 (キックオフシンポジウム報告書)」の概要について

1. 報告書の概要とプロジェクト研究の目的

本報告書は、国立教育政策研究所「高度情報技術の進展に応じた教育革新に関する研究」プロジェクト（令和元～3年度）における論点整理班が行ったキックオフシンポジウム「高度情報技術を活用した教育革新の展望と検討課題」の講演録と関連資料をまとめたものである。

本プロジェクトは、進展する高度情報技術を学校教育に積極的に取り入れることにより「教育の革新」を推進するための方策検討に資する知見を提供することを目的としている。

本シンポジウムは、高度情報技術を活用した教育革新の動向を把握し、その上で、今後の方向性と課題、及び当研究所の貢献可能性を探ることを目的とした。本報告書は、その企画趣旨と講演録、示唆・アンケート結果の分析の三章からなる。ただし、本報告書はシンポジウムの講演録を速報的に共有することを目的としたため、第1章の趣旨と第3章の示唆・結果分析の箇所については、文部科学省・国立教育政策研究所の組織的な見解を示すものではなく、客員研究員としての分析・記述であることに留意されたい。

なお、本報告書アップロード時のファイルサイズを小さくすることを優先し、画像の解像度を下げたため、既に公開されているキックオフシンポジウムの Web ページとリンクすることで、スライドの内容を確認できるようにした。あわせて、ご参照いただきたい。

2. 各章の要旨

第1章では、プログラムの概要と、高度情報技術を活用した教育革新の前提として

- ・ 高度情報技術の教育への適用それ自体を目的とするのではなく、教育の質を一層高めていくという目的の下、高度情報技術を生かすという方針を堅持すること
- ・ 学習観・学習理論と情報技術を互恵的に前進させること

という二点の重要性を確認した。

第2章では、国立教育政策研究所所長の挨拶、文部科学省の「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」報告書の説明、京都市の「教室の学びをいかにとらえるか」、聖心女子大学益川弘如教授の「テストはいかに学びをとらえるか：全国学力・学習状況調査も活用して」という二件の事例紹介、京都大学緒方広明教授の「学び続ける一生のためのラーニングアナリティクス」、東京大学白水始教授の「高度情報技術を学びの質向上のために活用する」という二件の講演、及び「高度情報技術を活用した教育革新のシミュレーション：理想のシナリオ・避けたいシナリオ」のパネルディスカッション、東北大学堀田龍也教授によるコメント、次長の閉会挨拶の講演録を掲載した。

第3章では、シンポジウムの論点を次の三点に集約した。

- ① 高度情報技術の進展した未来の社会とそれに向けて求められる教育
- ② 授業やテストにおける高度情報技術の活用可能性
- ③ 高度情報技術を活用するための ICT 環境やデータの標準化などの基盤

その上で、三点の論点に関して

- ・ 論点①～③を一体的に論じることが重要である。
- ・ 論点②は、「(①について) 現在求められている教育の本質をいかなるものだと考え、それに基づく現状の課題はどのようなものだと整理するから、高度情報技術をこのように活用したい」という形で論じることが求められる。
- ・ 論点③は、「(上記に従って) 求められる高度情報技術の在り方を支える基盤をこのように準備したい」という形で論じることが求められる。

という示唆が得られた。